

**釧路湿原自然再生協議会  
第21回湿原再生小委員会**

資料 6

**広里地区自然再生事業について**

**平成30年12月4日**

**環境省釧路自然環境事務所**

## 【 内 容 】

- 1 広里地区自然再生事業の概要
- 2 検討の経緯
- 3 今年度の実施内容
- 4 今後の方針



# 1 広里地区自然再生事業の概要

～ 広里地区は湿原再生手法を検討する場 ～

## ハンノキ林

### 問題点

1970年代頃

ハンノキ林が急激に拡大

### 原因

?

当初は不明

→ 取り扱いを検討

→ 拡大要因の解明

## 旧農地区域

### 問題点

1960年代後半以降、**湿原植生の劣化**

### 原因

旧雪裡川の分断、農地造成による**水位低下**

### 周辺環境

対岸：農地（ダイコン畑）

旧雪裡川：タンチョウが利用

→ **湿原植生の再生手法を検討**

～ 周辺環境に影響を与えない手法 ～



## 2 検討の経緯

### (1) ハンノキ林

調査・検討結果

- ① 将来的には拡大せず、衰退する可能性がある
- ② 生育の抑制には「伐採後の数年間の萌芽切除」が有効である



**取扱い方針**

- ・ハンノキ林の状況を把握しつつ、問題が認められた場合には伐採等を再検討する
- ・今後10年（5年に1回）モニタリングを続け経過を観察（第15回湿原再生小委員会で決定）

検討を終了

## 2 検討の経緯

### (2) 旧農地区域

#### 調査・検討結果

- ① 湿原植生は地下水位の安定的な上昇と関連
- ② 再生方法「水位を安定的に上昇させる方法」が必要

#### 工法の条件

- 隣接する河川と対岸のダイコン畑に影響を与えない方法が必要
- タンチョウの生息に影響を与えない施工が必要

#### 遮水壁の検討

- 遮水壁設置を検討した結果、効果（水位上昇の範囲）は限定的・不確実
- より深くまでの遮水壁設置は不可能
- 現時点における旧農地区域の遮水壁の設置は困難

平成30年度に現状の植生を確認して、検討を終了

## 2 検討の経緯

### (3) 今年度以降の方針

- 釧路湿原や他の湿原再生へ還元していくため、これまでの調査・試験・検討のデータや経験をとりまとめる。
- 現状の植生を調べ、植生の回復状況を確認する。

### 3 今年度の実施内容

#### (1) 事業成果のとりまとめ

目的 事業の実施・検討の中で得られた知見は、他の再生事業へ活用することが期待される。このため、収集された知見の整理ととりまとめを行う。

#### (2) 現状把握調査

目的 旧農地域における検討の終了にあたり、水位環境及び植生の現状を調査し、事業開始時からの変化の有無を把握する。

### 3 今年度の実施内容

#### (1) 事業成果のとりまとめ

(ハンノキ林：H15～H25 旧農地区域：H15～H29)

##### ・ 検討項目から得られた成果

- ・ ハンノキ林の抑制手法
- ・ ハンノキ林拡大メカニズム
- ・ 農地に隣接する地区の湿原植生を回復させる手法と課題

##### ・ 調査観測データ

- ・ 地下水位、植生、地質 等

##### ・ 専門家からのヒアリング

- ・ 成果と課題 等

##### ・ 釧路湿原での調査実施に関する成果

- ・ 調査手法、留意点 等

### 3 今年度の実施内容

#### (2) 現状把握調査

##### 植生調査

掘り下げ試験区を含む旧農地  
区域と標準区において、組成調査  
を実施。これまでにどのように  
推移してきたか把握する。

##### 水位観測

掘り下げ試験区を含む旧農地  
区域と標準区において、水位観測  
を実施。これまでにどのように  
変化してきたか把握する。



### 3 今年度の実施内容

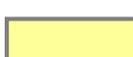
#### (2) 現状把握調査

##### ① 植生 旧農地区域と標準区

- ・ 2002年と2018年の種組成を比較  
(別紙1参照)
- ・ 群落区分は2002年時の植生図による
- ・ 旧農地区域は3群落に区分

凡例 (2002年)

旧農地区域

-  イゾノカサマツ・カサマツ群落
-  イゾノカサマツ・ヤマメ群落
-  イワノガリヤス群落
-  ムジナスゲ-ヨシ群落※
-  ムジナスゲ-ヤチヤナギ群落
-  ハンノキ-ムジナスゲ群落
-  ハンノキ-クハミズゴケ群落

※ムジナスゲ-ヨシ群落：旧農地区域の再生を目指す上で目標とする群落とし、「標準区」と呼ぶ

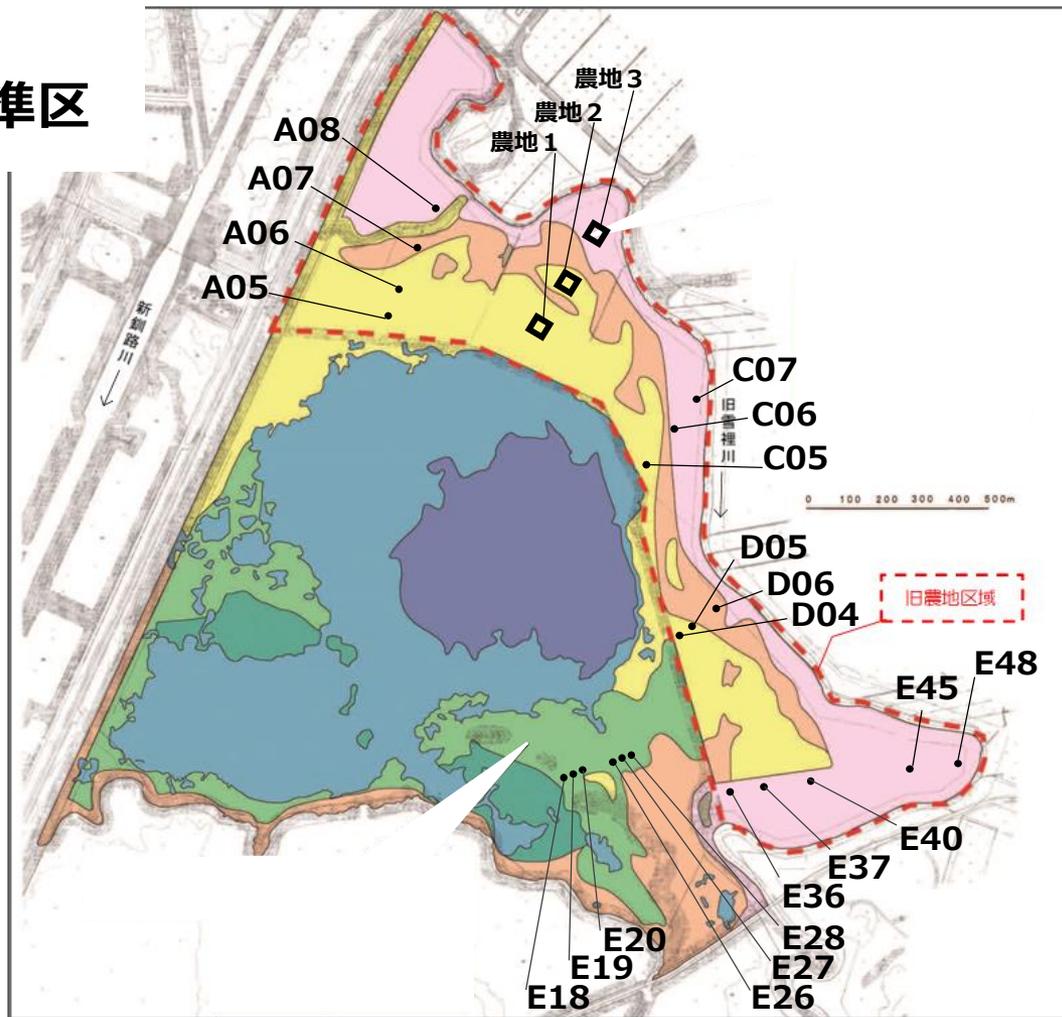
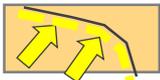
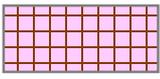


図1 広里地区植生図 (2002年)

### 3 今年度の実施内容

#### (2) 現状把握調査

##### ① 植生 旧農地区域と標準区

- 現在の植生分布のイメージ (図2)
- ムジナスゲ-ヨシ群落は種組成の変化が小さかった
- イワノガリヤス群落は  ムジナスゲ-ヨシ群落に近づいた地点がある
- エゾオオヤマハコベ・ヤラメスゲ群落は  イワノガリヤス群落に近づいた地点がある
- エゾオオヤマハコベ・オオアワガエリ群落は上記の群落に比べ変化  が大きく、フタマタイチゲ、アキカラマツ、イワノガリヤスなどが少なくなり、ヨシ、ナガハグサなどが増えた。上記の群落とは異なる種組成に変化。

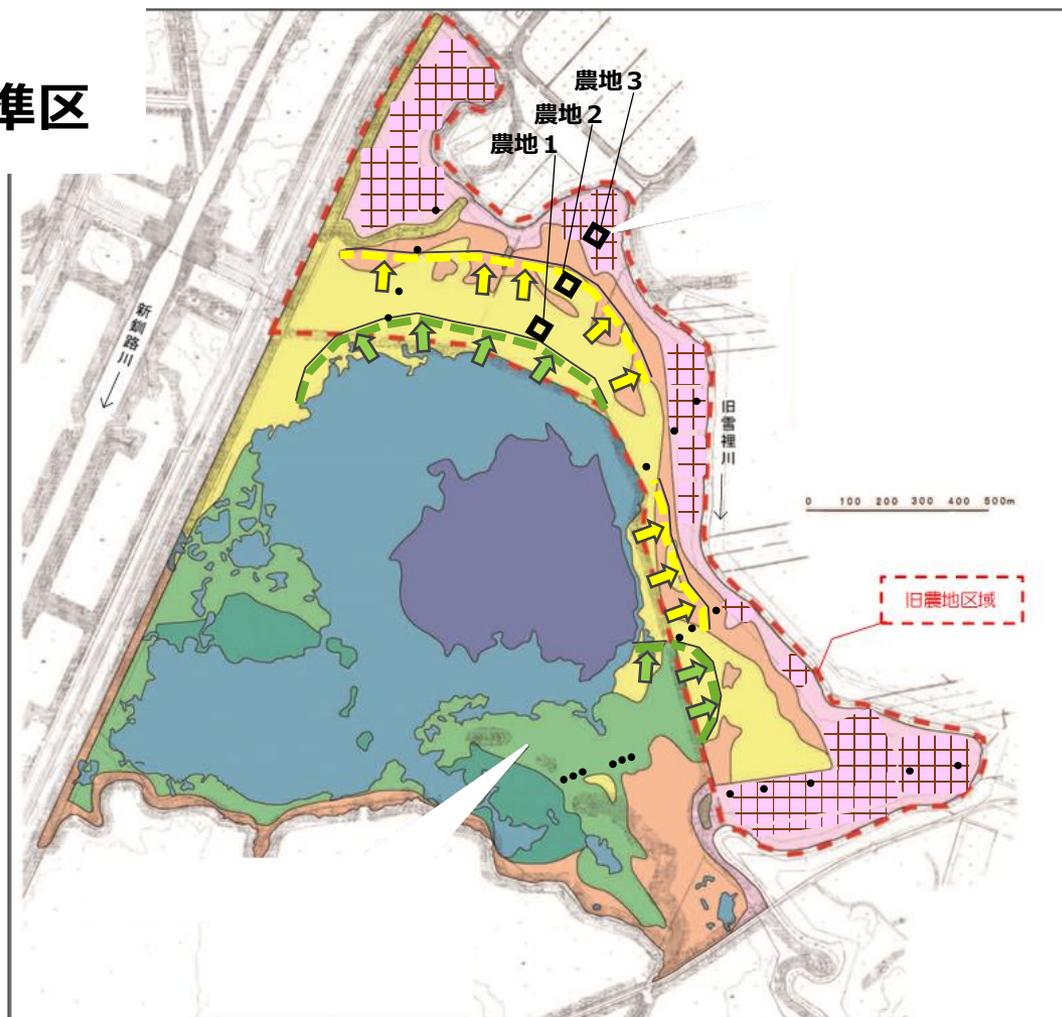


図2 広里地区変遷イメージ (2018年)

### 3 今年度の実施内容

#### (2) 現状把握調査

##### ① 植生 掘下げ試験区

- ・ 2003年から2018年の種組成を比較  
(別紙2参照)

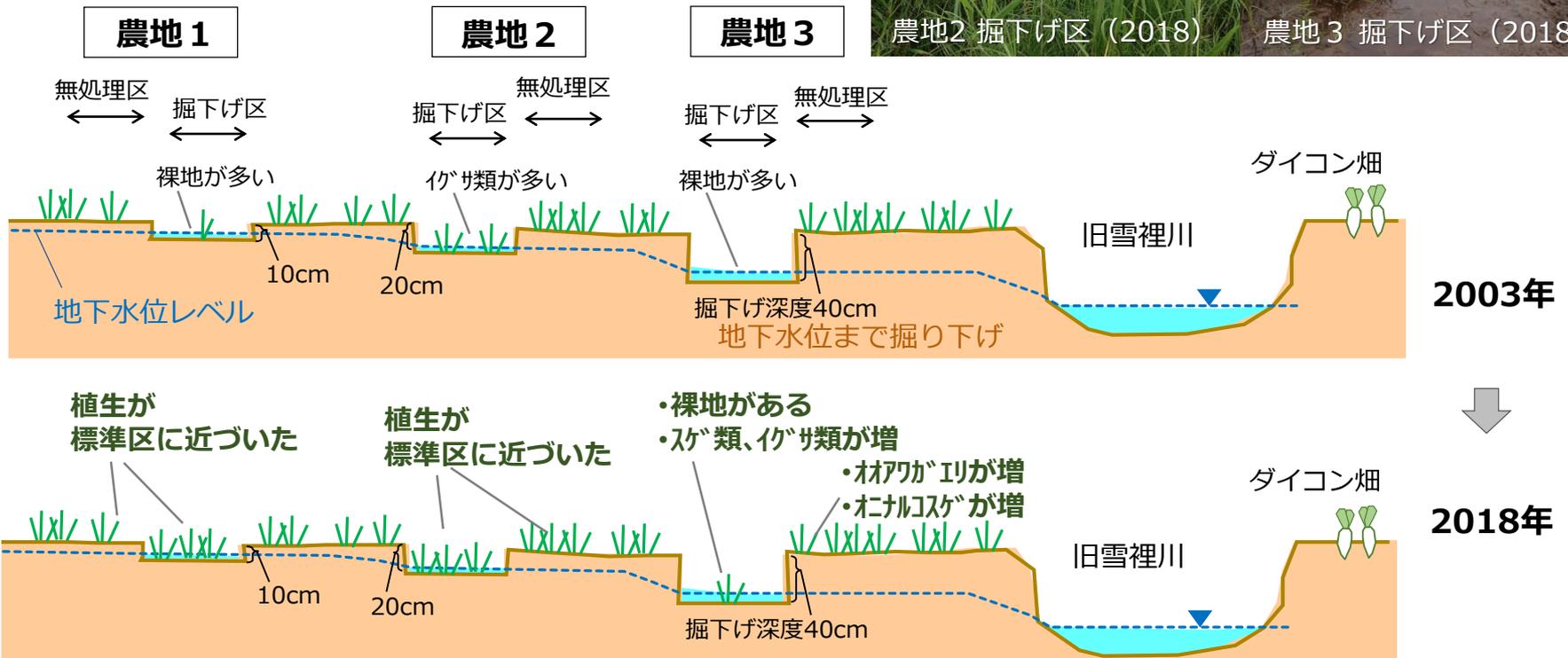


図3 掘下げ試験区 断面模式図 (2003年~2018年)

### 3 今年度の実施内容

#### (2) 現状把握調査

##### ② 水位観測

#### 掘下げ試験区（農地1～3）と標準区の比較

- ・ 標準区(ムジナゲ-ヨシ群落)と比べ、水位の変動幅が大きい

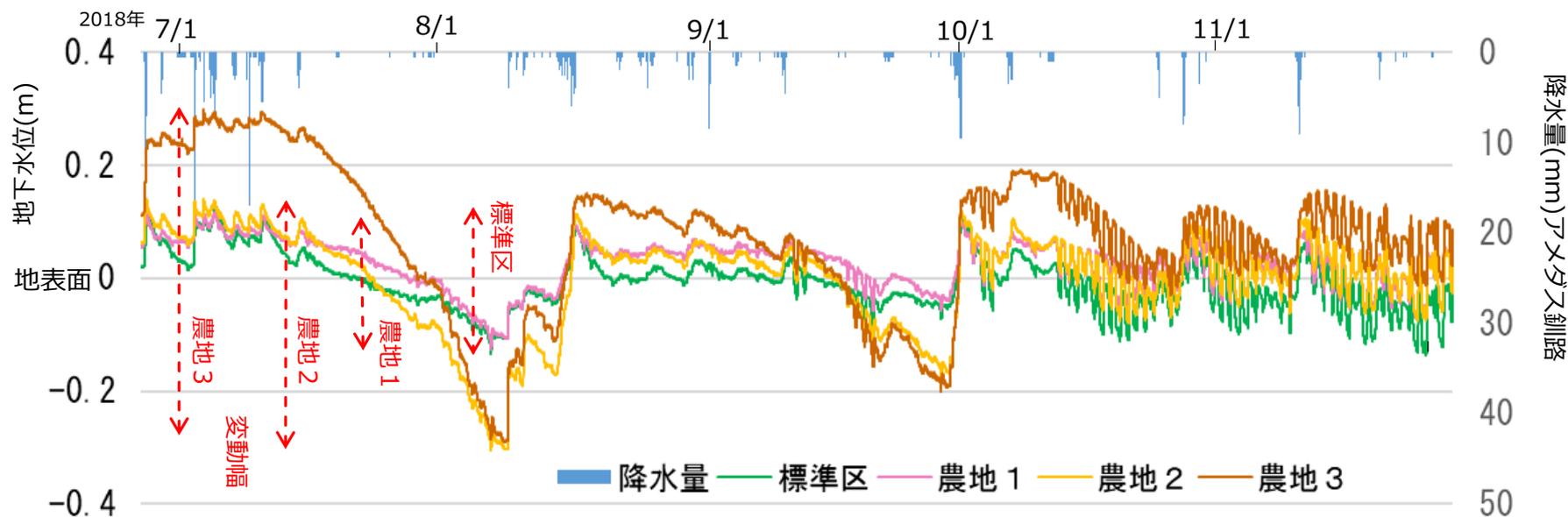


図4 掘下げ試験区と標準区の水水位変動(2018)

地表面を0mとした場合の水水位を比較した

### 3 今年度の実施内容

#### (2) 現状把握調査

##### ② 水位観測

#### 水位変動の経緯

- ・ 農地2と農地3では、標準区及び農地1に比べて標準偏差（水位変動幅）が大きい傾向はH15から変わらない

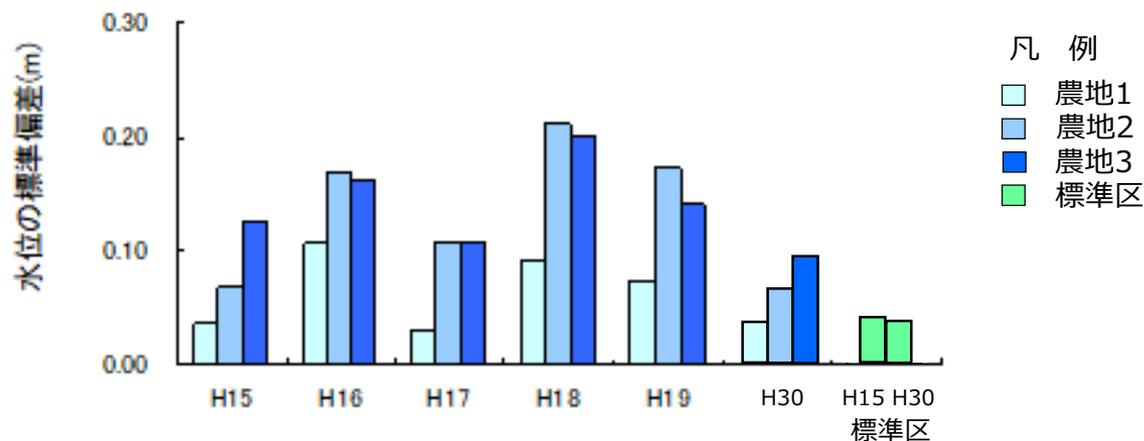


図4 水位変動の経緯（標準偏差の変化）

### 3 今年度の実施内容

#### (2) 現状把握調査 まとめ

##### 植生

- 旧農地区域では、部分的に標準区の植生に近づいている
- 農地化で大きな攪乱を受けて成立した群落（Iゾ オヤマノハコ-材ワガII群落）は、異なる群落に変わってきた可能性がある
- 掘下げ試験区の農地3の植生は、標準区とは大きく異なる

##### 水位

○掘下げ試験区（特に農地2, 3）での水位変動が大きい。この傾向は、H15～H19と同様。※変動が大きく水位低下の時間が長いことは湿生植物には良い条件ではない。

## 4 今後の方針



### (1) ハンノキ林のモニタリング (2019年・2024年)

既存のモニタリングサイトにおける調査、状況の把握

### (2) 事業成果を他の地区へ展開

湿原再生を目指す農地跡地への情報提供を  
目的に ウェブに事業成果を公開